

# 学校関係者評価委員会報告書

学校法人 国際学園 横浜国際福祉専門学校  
校長 坂本 翔子

横浜国際福祉専門学校は、平成 25 年度自己点検評価結果を踏まえ、学校関係者評価委員会を開催しました。下記の通り報告いたします。

1. 開催日時 平成 26 年 10 月 1 日（水） 12 時 10 分～13 時

## 2. 学校関係者評価委員

豊田 宗裕	星槎大学 准教授
多田 純夫	社会福祉法人 白根学園 白根学園児童寮 施設長
坂本 翔子	横浜国際福祉専門学校 校長
伊東 一郎	横浜国際福祉専門学校 副校長

## 3. 議事報告

### I. 前回の本委員会の提言について

#### ① 卒業生との関係づくり

1 期生から名簿で追うのは難しいため、ホームページ等で流し、集まれる人で集まり会を持つことを考えている。出席の返事をいただき、会場をセットする。内容は、講演と分科会、懇談会等を行うことを検討している。

#### ② EPA 介護福祉士との交流について

学校祭にて、EPA の介護福祉士合格者の中でインドネシア料理を提供していただき当日、EPA 事業の理解を進める掲示などと共に、学生や地域の方々とも交流を実施する。

### II. 平成 25 年度自己点検について

#### ◎ 改善対策

- ・学生や保護者に対しては、本校の教育理念等について入学前により丁寧に実施していく。
- ・ホームページのリニューアル、フェイスブックの開始をした。
- ・スマートフォンで見やすいレイアウトにするという意識が必要である。
- ・適応自立支援コースでは、保護者会を繰り返すことで、教育理念の説明や学校での様子等を知らせる機会を設けていて効果がある。介護福祉学科も本科生については、必要性が出てきている。入学前の情報収集もフェイスシート等の利用も含めて検討が必要である。どこまでどのようにフォローすればよいかを事前に把握し、経過を追って記録していく必要性があるのではないだろうか。まずは、学科で必要性がある学生を抽出し、個別支援計画の作成に取り組む。
- ・留学生を視野に入れ、様々な外国籍の方が学べる体制を構築していく。
- ・教育課程編成委員会で、参加型の独自科目はどうか、など意見をいただいているので、その意見も踏まえてカリキュラムに反映させていく。
- ・一定数の退学者がいる。学業不振者に対して、個別プログラムを作成し、留年率を低減させていく。再履修科目が多い学生は、残って学校で勉強をさせているが、参加率は個人差がある。
- ・卒業生に対してのキャリア支援は、卒業生の会でニーズを聞きながらや

っていく。

- ・課外活動について、ボランティアの掲示はしているが、自分から積極的に参加する学生がいない。教員から声をかけていくことはある。
- ・机や椅子の老朽化があるが、予算として組み込めていない。
- ・教育環境については、テレビ等機材のリニューアルが必要である。
- ・生徒募集に関しては、特に短期の職業訓練の応募が減っている傾向があるので、2年コースに関しての来年度の見込も厳しい。
- ・介護福祉士を取得したら在留資格が取れるように変わる可能性が出てきているので、実現すれば留学生の応募が見込まれる。学校としては、ニーズに合うのは台湾と考えており、台湾への関係づくりを検討している。

◎ 学校が直接アンケートに来てまわってくれと意見交換が直接できる。

◎ 学生相談部門について

- ・週1回カウンセリングの先生を配置している。相談部門の専用のアドレスを作り、メールでの相談でできるようにするのはいかがか。施設内では職員の相談を受ける部門を作り、専用アドレスを用意している。具体的にはあまりないが、学生なら相談がくるのではないか。

### III 26年度の自己点検項目について

- ・卒業生の会を実施する。  
卒業生の活用方法、卒業生の今後の活躍の場のフォロー体制（研修等）キャリア形成、目標提示等が行いやすくなる。
- ・卒業生の授業への活用  
実習施設との協力体制づくり、より良い授業に入れていくなど構築の改善